

## 献辞

商学部は、2020（令和2）年4月、新入生から4年次生までがまとまって、発祥の地・神田神保町に移転します。ここに至るまで、2015（平成27）年度には、1905（明治38）年の現神田校舎の地での商科の創設から数えて商学教育110年、1965（昭和40）年の学部設置から数えて50周年を、2018（平成30）年度には、会計教育100周年、会計学科50周年の節目を刻んできました。こうした商学部にとって大切な時期をともに歩んでくださった、竹本達広教授、蔭山雅博教授、見目洋子教授、安藤英義大学院専任教授が2019年度をもって本学を定年退職されることとなりました。

竹本達広教授は、1973（昭和48）年3月、早稲田大学商学部を卒業され、1975年3年、同大学大学院商学研究科修士課程を修了されました。その後、1979（昭和54）年4月、専修大学商学部助手に就任され、1980（昭和55）年4月講師、1983（昭和58）年4月助教授に昇格されたのを経て、1990（平成2年）年4月教授に昇格されました。学内での役職は、自己点検・評価委員会委員、就職指導委員会委員、障害学生支援推進委員会委員、eキャンパス推進委員会委員、スポーツ・ウェルネス・プログラム運営委員会委員、二部学生部委員、同次長を務められました。主要な担当科目としては、財務管理論、簿記論Ⅱなどがあげられます。ご研究の専攻分野は、財務管理で投資の意思決定や株式市場に関する論文を多数公表されています。

私事ながら、竹本先生とは研究室が隣同士で、いつも紳士的で優しく接して下さったことが印象的でした。

蔭山雅博教授は、1973（昭和48）年3月、専修大学文学部を卒業され、1976（昭和51）年3月、学習院大学大学院人文科学研究科修士課程を修了され、1981（昭和56）年3月同大学院人文科学研究科博士課程を単位取得退学された後、学習院大学、専修大学商学部、順天堂大学の非常勤講師などを経て、1988（昭和63）年4月、専修大学商学部講師に就任されました。そして1989年（平成元）年4月に助教授に昇格され、1996（平成8）年4月教授に昇格されました。学内での役職は、入学試験委員会、二部教務委員会、専修大学基本政策検討会議専門委員、図書館委員会委員、自己点検・評価委員会委員、国際交流委員会委員、高大連携連絡協議会委員などを務められた後、教職課程協議会委員長、学生相談室員および室長といった要職を歴任されました。主要な担当科目としては、社会科教育法、地理歴史科教育法などがあげられます。ご研究の専攻分野は、教育史、教育学で、近代中国を中心とするアジアにおける教育史、教育学に関する著書、論文を多数公表されています。残念ながら病に倒れられ、入院治療のため2017（平成29）年4月より欠勤され、2018年4月からは休職され、定年前のご退職となります。

私事ながら、蔭山先生は、小職が入職間も無く、右も左もわからない頃から、いつもやさしい笑みをたたえてアドバイスをくださったり、励ましてくださったりしました。途中病で倒れられて以降も、ご自身を厳しく律せられながら、教育・研究に励んでいらっしゃるお姿がとても印象的で、人生の後輩として多くを学びました。

見目洋子教授は、1973（昭和48）年3月、東京学芸大学教育学部卒業後、同年4月から1997年3月まで、一橋大学商学部商品学部門助手を務められていました。その間、東京都立商科短期大学、神奈川県立外語短期大学などで非常勤講師にも就かれました。そして、2001（平成13）年4月、専修大学商学部助教授に就任され、2007（平成19）年4月には教授に昇格されました。就職指導委員会委員長を通算3期務められた他、自己点検・評価委員会委員などに就かれました。主要な担当科目としては、現代商品論、商品開発、環境マーケティングがあげられます。ご研究の専攻分野は商品学、商品開発、消費社会論で、環境問題や少子高齢化などの現代的課題に対する企業の商品開発面での対応などに関して多数の著書、論文を公表されています。学外においても日本商品学会理事、公益社団法人日本べんとう振興協会理事を歴任されるなど幅広く活躍されてきました。

私事ながら、見目先生とは30年ほど前、小職が研究職に就いて間もない駆け出しの頃、研究会事務局としてはじめてお会いしたことがあったのですが、その後、専修大学で再会し、商学研究所での共同研究にも参加させていただくなど、不思議なご縁を感じております。

安藤英義教授は、1967（昭和42）年3月一橋大学商学部を、1969（昭和44）年3月には同大学法学部を卒業後、1971（昭和46）年3月同大学大学院商学研究科修士課程（経営・会計専攻）を修了、1974（昭和49）年3月同研究科博士後期課程（経営・会計専攻）を単位取得退学され、同年4月一橋大学商学部専任講師に就任されました。その後、同大学助教授、教授、大学院商学研究科教授を経て、2007（平成19）年に退職し名誉教授の称号を授与されました。この過程で、同大学より商学博士の学位を授与されました。そして、同年4月専修大学商学部教授に就任され、2014（平成26）年4月から大学院専任教授に就かれました。主要な担当科目としては、大学院博士後期課程の財務会計特殊研究、修士課程の財務会計得論などがあげられます。ご研究の専攻分野や財務会計論で企業会計制度と会計基準を主要なテーマとされており、この分野で多数の著書、論文を公表されています。2018年8月には、安藤先生が編著者・筆頭著者となり、商学部に在籍する4名の教員とともに『会計における責任概念の歴史』を上梓されるなど、学内に活発な研究活動の雰囲気醸成することに貢献されました。学外においても、日本会計研究学会会長を務められるとともに、2007年より2017年にかけて金融庁の諮問機関である企業会計審議会の会長としてわが国会の計制度の整備に尽力されました。

私事になりますが、安藤先生は学内の会議などには、いつも温厚な笑顔で参加されているのですが、ひとたび議論の筋道が乱れていると判断された際には、鋭く軌道修正の発言をされる姿が印象的でした。

この4月から、いよいよ商学部は神田キャンパスの地で新たなページを開くこととなります。竹本先生、蔭山先生、見目先生、安藤先生は退職されていきますが、ぜひ私たちが新たなステージでしっかりと根を張って行く姿を見守り、ときには叱咤激励して下さるようお願い申し上げます。

2020年1月吉日

商学部長 渡辺 達朗